

●富田町ができるまで（明治～昭和19年）解説

明治維新のころ、富田地域には17の村がありました。尾張藩が廃藩置県によって、紆余曲折を経て愛知県となり、明治の日本が近代化を遂げる中で、地域内の村落も統廃合されていきました。

明治22年には、地域内が「豊治村」「戸田村」「万須田村」「赤星村」の四大村に統合され、明治39年には、4つの村が大統合して、「富田村」が誕生しました。

明治の町村合併には反対もあり、愛知県下でも様々な地域対立が生じました。「愛知県史」資料編には、明治22年に旧万場村から出された、万須田村からの分離独立を求める請願書が収められています。

明治以降地域の人口は少しずつ増加し、昭和に入るとほぼ1万人を数えるようになりました。富田村が富田町となったのは、太平洋戦争の終戦直前の昭和19年です。明治維新から76年目に、富田町が誕生しました。

明治以降の地域の歴史の中で特筆すべきは、明治24年10月28日に起こった「濃尾大地震」です。日本史上でも最大級の内陸地震によって、記録的な被害が生じました。東南海地震が予測される現在にもつながるものです。

明治以降の地域史については、文献資料が少なく主として『富田村誌』・『富田町史』・『富田のあゆみ』を参考に展示資料を作成しました。明治以降の名古屋市・愛知県の資料、濃尾大地震についての資料も展示してありますので、ご覧下さい。

●富田地域 各学校の沿革年表 解説

『富田町史』には、教育に一章が割かれ、各校の沿革が記されています。

その中では、

「本町の教育事業が他町村より特に優れていることは、明治五年学制の発布によって教育に対する関心が深まり、戸田に素誠学校、千音寺に謙慎義覺、万場に高尚学校、前田に静和学校等相次いで創校せられて以来、今日に至るまでの教育の歴史を繙くまでもなく、本町が一町村で本校五、分校一を有すること、然もこれは海部郡下に例をみぬことによって明らかな証拠である・・(中略)・・・

如何に町民が教育を重視し、これに深い熱意を注いできたかを窺知し得るものである」（下線・強調 引用者）

として、富田村・富田町が、明治以来教育に並々ならぬ力を注いできたことを強調しています。町史が述べるとおり、富田地域には、その創立を明治初期に遡る小学校が何校もあり、教育に熱心な地域だったことがよくわかります。『富田村誌』・『富田町史』から、各学校の沿革年表を作成しましたのでご覧下さい。